

同期会便り

在京同窓会メンバーが参加した催しを紹介する。

【令和元年度長野県飯田高等学校定期総会報告】

■高23回（幹事）

飯田高校同窓会「令和元年度定期総会」が6月8日、飯田市のマリエール飯田で開かれた。全国から252名が参集、第1〜3号議案審議を経て記念講演、懇親会と続くプログラムを楽しんだ。当番幹事の高23回生119名は引き続き「卒業49周年同年会」を挙行、和やかに旧交を温め合った。

◆開会挨拶

校歌斉唱の後、宮島八束会長（高15回）が「たぶん最後の挨拶になる」と同日での退任を示唆して会場の笑いを誘ったうえで、各支部を含めた同窓生との交流を通じて、「本当」に良い学校を卒業したんだと改めて感じているなどと挨拶した。続いて巻山圭一校長が飯田下伊那地区の中学校卒業者数の減少に伴い、高校の再編・縮小が検討されているとして「（同窓生の）お考えをお聞かせいただきたい」と訴えた。高23回当番幹事を代表する熊谷嘉隆実行委員長は、地元幹事団による地道な活動ぶりに触

河合氏は、裁判員制度によって、「法廷で、見て聞いてわかる裁判」になるなど、「刑事裁判が劇的に変わった」と評価。実際に裁判員裁判を経験してみても「裁判員の熱心さ、全体的な質の高さに脱帽した」と語り、これは「日本人の教育水準が高いため」で、とくに長野県人はそう言えると思っ加えた。

続いて、社会貢献委員長の角田稔治氏（高11回）が今



クラリネット演奏に聴き入る懇親会場の様子



恒例の鏡開き

れたうえで、盛会となったことに謝意を表した。

◆議案審議・役員改選

伊藤隆祥

（高23回）、村田栄（同）両議長の進行の下、第1号議案の平成30年度事業・会計報告、第2号議案の令和元年度事業計画・予算をつつがなく承認。続く第3号議案の役員改選では、宮島会長が任期満了に伴い退任し、後任の副会長に大田中峰雄副会長（高22回）を選考する人事が承認された。在京飯田高校同窓会関係では、佐々木康夫会長（高15回）が本部副会長を退任し、新たに松原秀幸副会長（高19回）が本部副会長に就任した。

◆講演会

元仙台高等裁判所長官で弁護士河合健司氏（高23回）が「裁判員制度の実情と課題／自らの経験を踏まえて」と題し、今年で運用10年目を迎えた裁判員制度をテーマに講演した。

年度の高松賞に選ばれた「風越山を愛する会」を紹介。宮島会長から同会副会長の片桐晴夫氏（高9回）に賞状と副賞が贈られた。

◆懇親会

会場を別のフロアに移し、飯田地区のクラリネット愛好家が構成する「ソノール・クラリネットアンサンブル」の演奏を楽しんだ後、懇親会に移行。宮島会長の挨拶に始まり、恒例の鏡開きで乾杯してから各テーブルで料理と酒に舌鼓を打ちながらにぎやかに談笑した。途中、当番幹事の応援団OBによる指導の下、全員で応援歌を合唱。さらに高23回生全員が壇上（とその周辺）に集合し、実行委員長の熊谷氏から次期実行委員長の原正治氏（高24回）へと当番幹事引継式が行われた。

最後は最長老の長坂好忠氏（中41回）の音頭による万歳三唱で締めくくった。

その後、高23回生は再度別のフロアに移動し、同年会を開催。A組からH組まで、順に壇上に登って、「高校時代に流行ったフォークソング」をそれぞれ合唱するなど、旧交を温め合った。



新会長の大田中峰雄氏

写真提供／鳴海寿勇（高23回）
（文責／原誠）